

複式1・2年 国語科学習指導案

I組 第1学年 男子4名 女子4名
第2学年 男子4名 女子4名 計16名
指導者 石川 雅仁

- 1 単元 こたえをかながえながらよもう (教材「いろいろなくちばし」光村1年上)
じゅんじょに気をつけてよもう (教材「たんぼぼのちえ」光村2年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第1学年)

この期の子どもたちは、「はなのみち」の学習で、主人公の行動を中心に内容の大体を読み取る能力や、絵と文や場面と場面を対応させながら楽しく読む態度を身に付けている。また、自分が想像したこと等を分かりやすく発表したり、いろいろな種類の文章を読んだりしてみたいという願いを持っている。

そこでここでは、問いと答えの關係に着目し、内容の大体を読み取る能力を高め、主述のつながりや文のまとまりを考えながら読もうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「こたえをかながえながらよもう」(教材「いろいろなくちばし」)を設定した。

この学習は、働きとつくりの關係などを考えながら内容の大体を読み取る「くらべてよもう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「いろいろなくちばし」は、特徴的なくちばしの3種類の鳥を採り上げ、くちばしの形状とそうになっている理由についてについて、イラストや写真とともに解説されている説明文である。また、本教材は、問いと答えの二つのまとまりで構成されている。問いの部分には、くちばしの形(ヒント)と問いが、答えの部分には答えとくちばしのはたらき(説明①)、えさの食べ方(説明②)が書かれている。さらに、問いと答えのそれぞれのまとまりは別々のページにクイズ形式で書かれており、内容に關係したイラストや写真を文と対応させながら読み取るのに適した教材である。

そこで本単元では、5つの文の役割に気付かせ、問いと答えの構成になっていることを理解させる。その際、文の役割が分かりやすいように、文を工夫して提示することが大切である。

具体的にはまず、両学年に共通する生き物に関する不思議なことやすばらしい仕組みについて質問したり答えさせたりする活動を導入段階で同時に行い、生き物への興味・関心を高める。そして、終末段階で生き物について調べたことを異学年間で発表し合うことを確認し、教材文を使った学習の必要感や、単元への興味・関心を高め、それぞれの学年の目標を設定する。

次に、それぞれの教材を学年別に読み取らせていく。

(第2学年)

この期の子どもたちは、「ちがいをかながえてよもう」の学習で、同じ観点に沿って違いについて考えて読もうとする態度を身に付けている。また、読むことによって知った知識を相手に伝えたいという願いをもっている。

そこでここでは、時間的な順序を考えながら、内容の大体を読み取る能力を身に付けさせたい。また、事象と理由の文としてのまとまりや内容を考えながら読もうとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「じゅんじょに気をつけてよもう」(教材「たんぼぼのちえ」)を設定した。

この学習は、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取ったり、説明の順序に気を付けながら原因や理由をはっきりさせて表現したりしようとする「だいじなところ気をつけて読もう」の学習へと発展するものである。

教材「たんぼぼのちえ」は、日常生活でよく目にするたんぼぼを題材に採り上げ、花が咲いてから綿毛が飛んでいくまでの過程を、新しい仲間を増やすための「ちえ」として順序よく説明している説明文である。また、たんぼぼが変化していく過程を「二、三日たつと」「やがて」などの順序を表す言葉によって明確に示してある。さらに、「それは～だからです。」という文末表現により事象と理由を明確に区別し、それらを關係付けて読み取ることを学ぶのにも適した教材である。

そこで本単元では、たんぼぼがどんな「ちえ」を働かせているのかということを読み取る目的とする。その際、時間的な順序を表す言葉に気をつけさせたり、事象と理由を關係付けさせたりすることが大切である。

そこではまず、それぞれの鳥ごとに教材文を読み取らせ、鳥のくちばしについての内容が問いと答えで書かれていることをとらえさせる。さらに読み取ったことを比較させ、どの内容にも問いと答えが同じ順序で書かれていることに気付かせ、教材文を基にクイズを作らせる。その後、教材文を通して学んだことを生かして、材料として提示した写真を基に鳥のくちばしに関するクイズを作らせる。

さらに終末では、まとめたものを異学年で発表し合い、意見交換を行わせ、それぞれの学習に対する成就感や達成感を味わわせたい。

これらの学習を通して得られる能力や態度は、クイズづくりを言語活動として設定し、文の役割を考えて正しく読み取ったり、それを伝え合ったりして学び合うよさや楽しさを味わうとともに、異年齢集団のかかわりの中で互いに学びを深め合う喜びを実感することに結びついていくと考える。

(3) 子どもの実態 (調査人数及び調査方法 1年生8名:面接法, 2年生8名:面接法及び質問紙法)

本学級の子どもたちが、本単元の学習についてどのように受けとめ、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は次のとおりである。(数字は、人数を示す。)

	第1学年	第2学年
① 既知の知識	<u>鳥について知っていること</u> ・ 鳥を知っている(8) (空を飛ぶ, 巣を作る, 卵を産む, 羽が生えている, 木にとまる, えさを食べる) ・ 鳥を知らない(0)	<u>たんぽぽについて知っていること</u> ・ たんぽぽを知っている(8) (黄色の花, お日さまみたい, ぎざぎざの葉, 野原に咲く, ウサギが食べる, 綿毛がある, 種が飛ぶ) ・ たんぽぽをしらない(0)
② 初発の感想	・ おもしろかった(3) ・ 初めて知ってびっくりした(3) ・ 難しかった(1) ・ 蜜を吸う鳥を初めて知った(1)	・ たんぽぽにはちえがたくさんあってすごい ・ 雨の日には綿毛が飛ばないことを初めて知った ・ 倒れても起き上がることに驚いた ・ もっとちえを知りたい ・ たんぽぽにも蜜があるのかな
③ 気付き	<u>問いと答えへの気付き</u> ・ 種を遠くへ飛ばす(6) ・ 花とじくを休ませる(4) ・ 雨の日には落下傘を閉じる(2) ・ たんぽぽの色が変わる(1)	<u>たんぽぽのちえへの気付き</u> ・ 種を遠くへ飛ばす(6) ・ 花とじくを休ませる(4) ・ 雨の日には落下傘を閉じる(2) ・ たんぽぽの色が変わる(1)
④ 言語活動	<u>写真から問いと答えを考えたいクイズづくり</u> ・ 問いと答えがあるクイズ(2) ・ 問いだけのクイズ(2) ・ 無回答(4)	<u>時間的な順序を表す言葉の必要性への気付き</u> ・ 気付いている(3) ・ 気付いていない(5)
⑤ 難語句	・ さき(1) ・ はちどり(3)	・ らっかさん(6) ・ じく(3) ・ すぼむ(2) ・ しめりけ(1)

子どもたちはこれまでの日常生活の中で鳥と関わった経験が多くあり、身近に感じている。導入の活動に生かしていきたい。(①)また、ほとんどの子どもたちが、教材に対しておもしろさや驚きを感じている。子どもたちにとって身近な生き物を採り上げた学習活動を行うことで、学習意欲を喚起したい。(②)写真を見せてクイズを考えさせたが、半数の子どもが無回答であり、2名の子どもは問いだけのクイズをつくった。クイズは問いと答えで構成されていることを具体的な例示をしながら丁寧に指導していく必要がある。(④)

意味が分からない語句については、視覚的な面からも理解させ、内容の読み取りに生かしていきたい。(⑤)

そこではまず、たんぽぽの「ちえ」を読み取らせるために、「～ます。」というたんぽぽの様子や「それは、～だからです。」「～のです。」という理由を表す文末表現に着目させ、事象と理由を区別させ、内容の大体をとらえさせる。その後、たんぽぽの「ちえ」を紙芝居にまとめさせることで、たんぽぽの生長を表現するには、順序を考えさせることが大切であることに気付かせ、順序を示す言葉に着目させる。

これらの学習を通して得られる能力や態度は、紙芝居づくりを言語活動として設定し、順序を表す言葉や文末表現などから叙述に即して読み取ったり、それを伝え合ったりして学び合うよさや楽しさを味わうとともに、異年齢集団のかかわりの中で互いに学びを深め合う喜びを実感することに結びついていくと考える。

子どもたちはこれまでの日常生活の中でたんぽぽを見たり触れたりしたことがあり、身近に感じている。導入の活動に生かしていきたい。(①)ほとんどの子どもたちが、たんぽぽの知らなかったことに驚き、興味・関心をもっている。(②)しかし、事象と理由を関係付けて考え、たんぽぽの「ちえ」を読み取っている児童は少ない。「～からです。」等の文末表現に気付かせて、たんぽぽの生長の様子を読み取らせていきたい。(③)また、順序を表す言葉を使った表現が分かりやすいと感じていない子どもに、そのよさについて紙芝居をつくる過程で指導していく必要がある。(④)

(4) 指導上の留意点

単元の展開に当たっては、互いの考えが高まるように同学年や異学年のかかわりを大切にしながら指導していきたい。

ア 問いと答えの順序に気付かせるために、それぞれの鳥についての内容の構成を比較させたり、問いや答えに何が書かれているかを考えさせたりする。

イ 5つの文の構成を考えながらクイズを作らせるために、鳥のくちばしや全体の写真を準備し、くちばしの形状やはたらきについての文を作る際に活用できるようにする。

ウ 自分の学習を振り返らせ、学習に対する成就感や達成感を味わわせるために、自ら作成したクイズや紙芝居の発表を通して、同学年や異学年で交流させる。

エ 単元の特性や児童の実態から、学年別指導を行う。間接指導時には、ガイド学習を行い、相手に分かりやすい「伝え方」、自分と相手の考え方を比較するための「聞き方」、「問い返し方」を発揮させ、吟味させることで考えが高まるようにしていきたい。

ア 時間的な順序に沿って読むことの大切さに気付かせるために、順序を表す言葉に着目させて紙芝居を作らせる活動を行う。

イ 事象と理由という文のまとまりをとらえさせるために、文を短冊で提示し、並び替えさせる活動を行う。その際、「～ます。」「それは、～です。」「～のです。」の文末表現に着目させ、文の構造をとらえることができるようにする

3 目標

(1) 鳥のくちばしに関するクイズを作ることに興味をもち、5つの文の役割を確認しながら事柄の順序を考え、進んで読むことができる。

(2) それぞれの鳥についての文や写真を比較して、問いと答えがあることやその順序性をとらえ、自分なりにクイズをつくることができる。

(3) ア 問いと答えの内容や順序、文と写真の対応を考えながら、内容の大体を読むことができる。

イ 学習したことを基に、クイズや紙芝居にまとめ、発表する活動を通して、学習したことを振り返るとともに、同学年・異学年の友達へ考えを伝えようとする意欲を高めることができる。

(1) たんぼぼが生長するための「ちえ」やその理由に関心をもち、解決したい課題を確かめながら、事象の変化などについて説明した文章を進んで読もうとすることができる。

(2) 時間的な順序に従って、事象の変化の説明と理由の説明を関連付けて読むことができる。

(3) ア 時間的な順序に沿った事象の変化とその理由を考えながら、たんぼぼの「ちえ」について読み取ることができる。

4 指導計画 (第1学年：全10時間、第2学年：全15時間)

過程	学習課題・主な学習活動 (第1学年)	学習課題・主な学習活動 (第2学年)
つかむ・みとおす	<p>1 単元目標の設定を設定する。</p> <p>「いろいろなくちばし」の初発の感想</p> <p>生き物について知っていることの話合い</p> <p>「たんぼぼのちえ」の初発の感想</p> <p>鳥のクイズをつくってみたい。</p> <p>「ふくしき1くみ なるほど いきものはっぴょうかい」をしよう。</p> <p>くちばしくいずをつくるにはどんなことがたいせつだろうか。</p> <p>たんぼぼかみしばいをつくるにはどんなことがたいせつだろうか。</p> <p>たんぼぼはすごいな。</p>	<p>「たんぼぼのちえ」の初発の感想</p> <p>たんぼぼはすごいな。</p>
しらべる	<p>2 教材文を読み取り、クイズの構成を理解する。</p> <p>(1) きつつきクイズをつくる。</p> <p>(2) おうむクイズをつくる。</p> <p>(3) はちどりクイズをつくる。</p> <p>(4) クイズの構成を考える。</p>	<p>2 教材文を読み取り、たんぼぼのちえを読み取る。</p> <p>(1) たんぼぼのちえ①の読み取り</p> <p>(2) たんぼぼのちえ②の読み取り</p> <p>(3) たんぼぼのちえ③の読み取り</p> <p>(4) たんぼぼのちえ④の読み取り</p> <p>(5) たんぼぼのちえのまとめ</p>
ふかめる	<p>3 自分で選んだくちばしの写真を基に、クイズをつくる。</p> <p>(1) クイズをつくる。</p> <p>(2) 同学年の友達と練習し、クイズの修正をする。(本時)</p> <p>(3) クイズを発表する練習をし、発表会の準備をする。</p>	<p>3 読み取ったたんぼぼのちえを、紙芝居にまとめる。</p> <p>(1) 紙芝居をかく。</p> <p>(2) 同学年の友達と練習し、紙芝居の修正をする。(本時)</p> <p>(3) 紙芝居を発表する練習をし、発表会の準備をする。</p>
ふりかえる・いかす	<p>4 合同発表会をして、意見や感想の交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話合いの観点の明確化 異学年による交流 感想の交流 クイズをつくったり、紙芝居にまとめたりする際に大切なことの発表 <p>問題と答えをちゃんと入れられたね。</p> <p>2年生のように発表したな。</p> <p>もっと生き物の不思議やすばらしさを知りたいな。</p> <p>1年生のクイズは分かりやすかったよ。</p> <p>順序を表す言葉を入れると伝わりやすいね。</p>	<p>1年生のクイズは分かりやすかったよ。</p> <p>順序を表す言葉を入れると伝わりやすいね。</p>

5 本 時(第1学年：8／10，第2学年：12／15)

(1) 目 標

自作クイズの練習を通して、5つの文の役割や問いと答えの順序性の大切さに気付くことができる。

自作の紙芝居の練習を通して、順序を表す言葉を使うとたんぼぼの生長の様子がよく分かることに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

1年生には、クイズを構成する5つの文（ヒント、問題、答え、説明①、説明②）を提示し、自作のクイズと比較させる。

2年生には、「やがて」「このころになると」などの言葉のある場合とない場合を提示し、比較させる。

学年別指導の中で、ガイドの司会よる話し合いを中心とした授業を行う。1年生は友達のクイズを聞いてよかったところを、2年生は紙芝居をつくる上で大切なことまで話し合わせる。その際、1年生が発表しやすいように、発表の仕方を示す。また、それぞれの学年の話し合いでは子どもたちが順序性の大切さに気付きやすいように、2種類のモデルを提示する。

また、学習の終末段階では、異学年間でも学習のふりかえりを行い、「聞き方」や「伝え方」、「問い返し方」を称賛・価値付け、相互に考えを吟味したことでより高まった考えを出すことにつながったことに気付かせたい。

(3) 実 際

主な学習活動（第1学年）	教師の位置	主な学習活動（第2学年）
1 前時を振り返り、学習課題を確認する。 あいてがよくわかるようにくいずをはっぴょうするには、どんなことに気をつければよいだろうか。	(分)	1 前時を振り返り、学習課題を確認する。 あい手がよくわかるようにかみしばいをはっぴょうするには、どんなことに気をつければよいだろうか。
2 学習の進め方を確認する。	2	2 教材文を微音読して、これまでの学習を振り返る。
3 5つの文を並べて、発表の練習をする。 相手が答えやすいクイズの順番にするには、文をどんな順番に並べればいいのか。	3	3 学習の進め方を確認する。
4 友達とクイズの発表練習をする。	4	4 紙芝居を完成させる。 言葉をもっと加えてみると、相手に分かりやすくなりそうね。
5 発表練習を通して、気付いたことを話し合う。 ① 友達のクイズのよかったところ ○さんのクイズは、問題→答えの順序になっているね。 問題の中の文の順序と、答えの中の文の順序にも秘密があるのかな。	13	5 紙芝居の発表練習をする。 6 友達の紙芝居の発表練習を通して、気付いたことを話し合う。 ① 友達の紙芝居のよかったところ ② 紙芝居をつくるときに気を付けること
② クイズをつくるときに気を付けること 文を並び替えて比較 ヒント（くちばしの形）の文 問題の文 答えの文 説明①（くちばしのはたらき）の文 説明②（えさの食べ方）の文	8	たんぼぼの花のじくは、ぐったりとじめんにおれてしまいます。白いわた毛ができてきます。 ← 比較 → たんぼぼの花のじくは、ぐったりとじめんにおれてしまいます。やがて、白いわた毛ができてきます。
文の並び方はいろいろあるけど、相手が答えやすく、なるほどと思える順序があるんだね。	9	「やがて」という言葉が加えられると、たんぼぼの様子の順序が分かりやすいね。
6 話し合ったことから、学習のまとめをする。 くいずは、もんだいとこたえのじゅんじょをよくかんがえると、あいてはわかりやすい。	6	これ以外にも、順序を表す言葉を付け加えることができるかな。
7 ワークシートにまとめ、発表会に向けて練習をする。 相手が答えを聞いて、なるほどと思えるような順序に文を並び替えてみよう。(修正)		7 話し合ったことから、学習のまとめをする。 かみしばいは、じゅんじょがわかることばを入れると、あい手はわかりやすい。
8 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを発表し合う。 文が変わっても、やっぱり順序は大切なんだな。(強固)		8 紙芝居に色を付けて完成させ、発表会に向けての練習をする。 自分の紙芝居にも、順序を表す言葉を付け加えてみよう。(付加・修正)
		9 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを発表し合う。